

## は し が き

この研究は、研究協力校に依頼した新潟市立両川中学校理科担当教師と当教育センター科学教育部所員とからなる共同研究班による3ケ年計画のうちの第1年次の成果をまとめたものです。

現在の教育動向は、歴史的発展の必然的帰結として、自ら判断し行動することができ、かつ人間性豊かな児童・生徒の育成を強く志向するものととらえることができます。

理科の教育においては、これまでややもすると見られたような人間が自然を征服し、君臨する立場を棄て、有限な自然といつまでも共存していくにはどうしたらよいかに関わる自然科学的基盤に立脚した見方・考え方を育成することで、児童・生徒の人間形成に生涯にわたって寄与すべきであると考えられます。

本研究班では、中学校理科の指導において、上述の目標に到達するにはいかなる指導の手だてを構じたらよいか探りたいということが、最初の、そして根底をなす課題意識でありました。この課題の達成は、知識を獲得する過程の学習に支えられた自然の理解、即ち、複雑な自然の正しい学び方の学習の結果得られた自然理解に基づいてなされるものであると考えられます。

このような理由から、「学習方法の習得を旨とする理科指導」を研究主題として掲げ、その方途を探ることにしましたが、幸い、両川中学校の求めておられた教育課題と一致いたしましたことから共同研究を実践することのできましたことを喜んでおります。

本年度は、その初年次として、自然を学ぶ方法を習得していく上で欠くことのできない基礎的・基本的内容や、それを支える身近な直接経験に焦点を合せて探ってきましたが、協力校と当教育センターとは比較的近距離にあることも幸いして、実践研究の対象とした授業には、ほとんど欠かさず出向いて担当の先生と密接に連携を保ちながら研究を推進することができました。

本報告書が、各学校における日常の理科の授業実践にいく分なりともお役に立ち得れば、まことに幸いです。しかし、継続研究でありますので、研究の進め方等につきまして、不適當な点など御指摘いただき、率直な御指導をいただけましたら、今後の研究に早速生かしていきたいと考えております。

この共同研究のために、多大な御協力をいただいた新潟市立両川中学校、中山菊吉校長先生はじめ、職員の方々にあつく御礼を申し上げます。

昭和54年3月31日

新潟県立教育センター所長 風 巻 友 重